

「認知症ケアマッピング」の取組み。(令4年3月)

西城園では、「熊本県認知症介護の質の向上支援事業」(熊本モデル)の一環として、「認知症ケアマッピング」を実施しました。

これは、認知症の方について、認知症の症状で捉えるのではなく、その方の個性や生活状況など、「その人らしさ」を中心として理解していく視点が重要であるという考え方に基づいて、実際に認知症の方に対してどのような介護が提供されているのかを測定し、その結果を検証し介護サービスに生かしていこうというものです。

今回、西城園では、熊本県認知症専門士会の松永代表と熊本県作業療法士会の元田理事の2名を特別講師としてお招きし、2月18日及び28日に2日間で延6時間にわたる実際の介護現場でのサービス提供の状況を「入居者の視点」に立って観察しました。その中で、認知症の方との関りが、どのような意味があったのか、気分よく過ごされていたのか、良くない状況だったのか、などを5分ごとに記録していき、介護職全員で一緒に検証し皆で共通認識を持つことで、日ごろの介護を振り返る機会となり、認知症の方の立場になってサービスを考えることを実践する場になりました。

その後、3月5日には、熊本県認知症介護実践者フォローアップ研修が開催され、本園の中村課長代理が西城園におけるケアマッピングの実施状況の報告を行い、県内の研修参加者から高い評価を頂きました。

最後は、3月9日に松永代表から総括の講話があり、認知症の方が周囲の人や社会と関りを持ち、人として尊重されているということを実感することで、認知症が軽減されていくという考え方（「パーソン・センタード・ケア」）を日常の介護業務に取り組んでいくことの重要性を教えてくださいました。

一連の研修は、認知症についての真の理解を深め、認知症の方、お一人お一人の立場に立った介護のあり方を学ぶ貴重な研修でした。

「敬愛の精神、奉仕の心」という西城園の基本理念をさらに追求していくことの重要性を改めて認識させていただきました。

今後の西城園における介護サービスにおいて、実践させていただきます。



2/18～2/19 ケアマッピングの状況



3/5 フォローアップ研修での発表状況



3/9 特別講話（パーソン・センタード・ケアについて）